



# 大すきいっぱい西北の子

## ～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和7年10月9日  
長崎市立西北小学校  
文責：校長 江原芳樹  
R7年度 第6号

ようやく、「秋になりましたね。」と声をかけることができるようになりました。顔を出す時期に悩んでいた彼岸花も、少し慌てたように土の中で秋を感じ取り、一気に茎を伸ばし花を開いています。ただ、例年と違うのは、花の時期が少し短い気がしています。秋をようやく感じたものの、土から顔を出すと、すでに季節が早く流れていて、季節に追いつこうと急いでいるのかもしれません。

中園方面のJR線路沿いには、この季節に朝顔がたくさんの花をつけています。朝顔は夏のイメージですが、もともとは夏の終わりから秋にかけて咲く花だったようで、秋の七草に登場する桔梗（キキョウ）は、朝顔のことだと言われています。線路沿いの朝顔は、白と薄青の花ばかりです。朝顔は人間が様々手を加え、花の色や大きさを改良してきました。それでも、手を加えず自然のまま代を重ねていくと、また元の色に戻っていくそうです。「自分らしさ」を取り戻すのでしょうか。

学校も子供が「自分らしく」力を伸ばしていく場でありたい、そう願っています。

### 学習状況確認日（前期通知表配付日）

今の学年になり、1年のちょうど半分が過ぎました。中間地点にいるということです。1年の前期の自分の学習の状況について、明日、通知表をもとに振り返ります。

通知表は2～6年生は3段階で、1年生は2段階で評価しています。

「十分達成」は、身に付けなければならぬことが、十分に身に付いていると判断できる状況です。どういう取組が「十分達成」という評価につながったのか、自己分析をしてさらに後期の学習へとつなげてほしいと考えています。

「達成した」は、概ね身に付けなければならないことを、身に付いていると判断できる状況です。学習内容は多岐にわたるので、少し習得に差がある学習も見られることはよくあることです。「達成した」の中にも、十分とやや不十分があると考えられますので、「十分達成」へ向けてどう取り組んでいくのかを考える機会としてほしいと思います。

「もう少し」は、身に付けなければならぬことがまだ十分には身に付いていない状況です。頑張って取り組んでも、「不十分」は出てくるものです。「がんばればできる！」という期待は込めて、必ずそうなるとは限らないのだから、向上するための取組をさらに工夫していくようにしてほしいのです。「もう少し」を「ダメ」と捉えてしまい、意欲が低下することのないようにしてください。「もう少し」は、課題であって、改善していく視点となります。ご家庭でも励ましの言葉かけをお願いします。

一番大切なのは、通知表を受け取り、その内容について自分なりに根拠や理由をもつことができるかことです。前期の学習の取組を振り返り、「十分達成」の理由、「もう少し」の理由を考え、後期の学習に生かしていくことが、学習状況確認日の目的です。



11月20日は西北小学校の研究発表会です。

西北小学校では、令和6年度から2か年計画で、長崎県教育委員会公募制研究指定事業を受け、「学びに向かう力の育成」の研究に取り組んできました。

今年は最終年度ということで、11月20日（木）に長崎県下の先生方が来校し、子供たちの学習の様子を参観してもらうことになっています。100名以上の参加者が予想されていますので、授業公開を午前に3学級、午後に4学級で予定し、できるだけ多くの学級の学習の様子を研究の成果として発表したいと考えています。

多くの参観者が来校するので、全職員で対応することになり、授業公開の学級外の学級は早めに帰宅されることになります。また、学年ごとに週の時数を揃えなければならぬという決まりがあり、時数調整のため、授業公開学級は登校を遅らせるなどの対応をします。

保護者の皆さんには、兄弟によって登下校時間が異なるなど、ご迷惑をおかけすることになりますが、ご理解ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。



【通常登校で10時50分に下校する学級】※給食はありません。

1年2組、1年3組、2年2組、3年1組、3年2組、3年3組、4年1組、4年2組、5年3組、6年1組、6年3組、そよ風1～4組、そよ風5組（1・5年）、そよ風6組

【9時までに登校し、11時55分に下校する学級】※給食はありません。

2年1組、4年3組、5年2組

【10時40分までに登校し、14時30分に下校する学級】※お弁当の準備をお願いします。

1年1組、5年1組、6年2組、そよ風5組（4年）

### 《校長背文歩道 No.25》

本校の研究テーマである「学びに向かう力の育成」を受け、どのような子供に育てたいのか職員で話し合いました。西北小学校が目指すのは「自立した学習者」です。

義務教育において、これまで「自立」という視点は大切にされてきました。それは、経済的な自立、精神的な自立の意味合いが強く、生活者としての自立をめざしたものでした。どの子供にもしっかりと就労できる能力を付けさせることができることが求められてきました。戦後、欧米諸国に追いつけ追い越せと、生産性のある社会人が求められ、その素地となる能力育成が、学校としての役割となっていましたからです。

私たちがめざす「自立した学習者」は、生涯にわたって学び続ける力をつけることを目的としています。自分の生活スタイルに合わせながら、その時その時に必要な学びに向かうことのできる自立性をイメージしています。そのために小学校の段階では、授業において学習することは、自分の力であるいは自分たちの力で学習していくとする場を保障します。家庭学習は教師から与えられた課題（宿題）だけが学習ではなく、自分が知りたいこと、疑問に思うことなど、自分で学習を選択し取り組むことを推奨します。予測不可能な社会を生きるために、常に自分の学びを調整できる力を身に付けさせたいと強く願っています。